

松江保健生協 2024年度のまとめ（案）

（はじめに）

社会保障制度の改悪が進んでいます。高額療養費の自己負担限度額引上げ検討により、がんや難病などと闘う患者・家族から「生きることを諦めさせないでください」などの切実な声があがりました。また、物価高騰により、「朝ごはんを食べられない、昼ごはんを我慢する、1日1食で耐える」といった若者の声も寄せられています。「国が第一に守るべきは国民の命」です。『人命は地球より重い』という理念は、国民共通の認識として深く根付いており、政府や行政こそがその実現に向けた具体的な責務を果たすべきです。

さて、24年度は、松江保健生協が抱える経営的な困難打開にむけ、経営状況の共有を進め、経営改善を行った他法人に学び、民医連中四地協経営部との経営検討会を開催するなど職員一丸となって経営改善に取り組みました。また職員確保が十分でないなかでも「断らない」を合言葉に松江圏域（松江・安来地域）の救急医療を守り抜きました。

しかしながら、上半期の経営不振の影響が大きく、2,040万円の経常剰余（黒字）にとどまりました。また、看護師不足への対応と労働環境改善を図るなか持続可能な事業運営への転換をすすめ、25年3月末での東出雲診療所閉院、ふらここデイサービス閉所、4階南病棟（医療療養病床40床）の休止を決断しました。

健康チャレンジやサロンへの参加など本来の医療生協運動が拡大し、健康づくり、つながりづくりでは大きな成果を残すことができました。組合員活動の「地域まるごと健康づくり」の広がりは、事業と運動の推進力になると同時に、新班結成や復活班の誕生、担い手づくりなどに繋がりました。一方で、組合員と出資金の両方が減少しました。

1、健康づくり、つながりづくり

- ① 第2期「あったかまちづくりビジョン」をすすめ、支部を元気に、地域を元気に「誰もが健康で居心地よくくらすまちづくり」にむけ、“楽しい”を大事にして取り組みました。支部企画は109回、2,323人参加（昨年比79%）となり、新たなつながりが広がりました。グラウンドゴルフ、ウォーキング、モルック、お出かけ交流会、寄せ植えなど様々な企画が実施され、地域の健康づくり、つながりづくりが広がりました。特に「ありがとうキャンペーン」では、新規197人、だんだん出資51人の加入につながりました。
- ② 「担い手ふやし月間」に取組み、前年度を上回る35人の運営委員が誕生しました。新しい運営委員が、新たな人を誘って、更なる担い手づくりにつなげました。
- ③ すこしおの取り組みとして、健康づくり委員会を中心に、組合員考案の「すこしおレシピ」や、尿塩分チェックを新たにキャンペーンとして加え、生活習慣を見直すきっかけづくりにつながりました。

- ④ 健康チャレンジは19年目を迎え、11,896人が参加しました。仲間でチャレンジも869グループ、3,375人の参加があり、10の新班誕生と1つの班復活につながりました。
- 秋の生協強化月間では、笑顔まつり（生協病院グループ）、虹まつり（虹グループ）、学園まつり（学園グループ）を開催し、組合員、職員、地域の人々となつなかりを深めることができました。
- ⑤ 医療福祉生協連の片山専務を招いて開催した理事職場長合同会議（24年9月開催）で組合員拡大、組合員活動の強化について検討しました。また、「医療福祉生協における組合員参加のあり方提言」の学習で生協活動の担い手不足、高齢化など会員生協が共通に抱えている課題を共有しました。
- ⑥ フードバンクと子ども食堂などの構成団体として、未来を担う子ども達への支援を継続して行いました。また、新入職員研修の一環で他団体との交流をすることができました。「おたがいさま支えあい基金」は940,361円を達成し、「無料低額診療事業」や「その人らしくを支える支援」に活用しました。

2、事業、経営

- ① 二次医療圏（松江市と安来市）での医療提供体制がひっ迫するなか、職員は多忙を極めました。「断らない」を合言葉に入院・入所受入れ、救急搬入の対応に奮闘しました。また、在宅患者の医療ニーズに応えるため訪問診療を拡大し、ひと月当たり50件まで拡大しました。一方で、上半期の入院収益未達、外来患者・通所介護利用者の減少により24年度の経常剰余金は2,040万円（予算差▲1億655万円、昨年差+1億4,625万円）となりました。
- ② 経営改善に向け経営学習会（10/31）、民医連中四地協経営検討会（11/23・24）を開催しました。経営改善の先進事例などを学ぶと共に、当法人の課題を指摘されたことで役職員の経営改善に対する意識が高まり、具体的な手立てにつながりました。事業所独立会計の運用による各事業所が現状分析と改善策の実施のために、25年度にむけ、専務補佐機能として法人事務長会議の定期開催を行います。
- ③ 組合員増やしでは1,034人（目標1,200人）、出資金増やしでは1億9,180万円（目標2億3千万円）、物価高騰などの影響により出資金の純増は▲5,903万円となりました。

3、ともに学ぶ、人づくり

- ① 2025年度医療福祉生協の中心テーマと重点課題（案）や全日本民医連第46回運動方針を各事業所で職場内学習会を行いました。班会やサロンを通じて組合員と職員の連携を強めました。
- ② いのちの章典を開催（2/27）し、日々の医療・介護活動を振り返るなかで、患者・利用

者さん、組合員さん、地域のみなさんとのつながりを大切にして活動していることを共有しました。

- ③ 職員の働き方改革、ワークライフバランスの改善、メンタルヘルス対策を進めてきました。ワークライフバランスの改善については特命チームを設け、25 年度に向けての推進体制を設置しました。

4、平和で公正な社会づくり

- ① SDGs の取組みとして、本庄支部の中海海岸清掃、城北支部のフードバンク応援バザー開催など環境問題を考え、暮らしを支援する活動などを継続しました。
- ② 「憲法改悪を許さない」「保険で良い歯科医療を」「介護保険制度の改善と介護職員の確保」「いままで通りの保険証を残そう」「高額療養費の負担限度額引き上げの白紙撤回を求める緊急署名」などの署名に取り組みました。
- ③ 7 月の平和行進には組合員と職員が参加し、平和の誓いを新たにしました。8 月の原水禁世界大会では、過去最高の約 10 万羽の折り鶴を奉納し平和の祈りを捧げました。第 36 回「戦争体験を語り継ぐ集い」は、再び戦争を起こさないよう悲慘な体験とその教訓を語り継ぎました。
- ④ 能登半島地震支援に1名を派遣しました。金沢市近郊に避難されている「みなし仮設」世帯を訪問し、支援物資を届け困りごとなど伺い、能登町やNPOと連携した支援を行いました。また、大船渡市災害義援金など被災地への支援活動を行いました。
- ⑤ 医療・介護制度の充実、医療介護従事者の確保など地域の要求を直接伝えるために島根県健康福祉部長等への要請行動、島根県議会議員との懇談を行いました。